

声で届ける 若松英輔「言葉の贈り物」(特別試聴版)

言葉とは出会うもの？

大瀧：今日はテーマは？

若松：そうですね。読むと書くって言う講座をずっとやってきましたでしょ。

大：はい

若：で、今日は**言葉との出会い**なんです。

大：言葉との出会い。

若：うん、これがやっぱりすごく大事だと思っていて。
大事だというか、もう**基本中の基本**だと思うんですよ。基本中の基本なんですけど、意外と、なんて言うのかな。大変というのと違うんですけどね、やっぱり簡単じゃない。簡単じゃないっていうことと大変とまたちょっと違うと思うんですけどね。

大：うーん。

若：大変っていうのは、すごく手間がかかるとか。で、簡単じゃないってというのは、態度をしっかりしておかないとダメだよ、っていうことですね。

大：覚悟がいるよってことですかね。

若：例えばね、すごく素朴なことでも簡単じゃないってことあると思うんですよ。

大：うん、そうですね。

若：大変っていうのはやっぱり労力が大きいってことだと思うんですね。で、労力が大きくないんだけど、**しっかりした心構えでやらないとあんまり上手くいかない**ってというのが、簡単じゃない、容易じゃないってことですよ。



「理想」は自分で想定することができるのか？

大：うん。そもそも言葉は出会うものなんですか？

若：と僕は信じてるんですけどね。と、信じているというか、と、感じているんですよ。やっぱり人と同じだと思うんですよ。

大：うん

若：人と同じだっていうと、例えば理想の人っていうのを探す場合があるじゃないですか。
で、**理想の人**っていうことを自分で描いて探すと、その人の理想の人に出会

えるか出会えないか微妙ですよ。

大：うーん、まあそう簡単には出会えませんよね。

若：ていうのは、そういう人がいないんじゃないかと、自分の理想というものと、本当の意味でその人の理想・・・理想っていうのはその人にとってなくてはならないものだと思うんですよ。で、その人になくてはならないものって言うものを自分で想定することができるのかっていうことが、実は大きな疑問なんだと思うんですよ。

大：確かに理想、例えば異性とか考えると、なんとなく世の中で言われているような、まあ「こういうタイプ」とか、自分に本当にそれが必要かとか、本当にそういう人が理想なのかっていうことよりも、なんとなく世間一般の基準で考えちゃいますね。

若：だと思えますね。で、実は大変そこは多分に世の中の影響を受けていて、自分の価値観で生きているようで、人は意外と自分以外の力に動かされているんですよ。それが意味あるものだったらいいんですけども、例えば流行とか。流行にのるもの楽しいですけど、あんまりそこに大きく揺り動かされちゃうともったいないですよ。

大：うん

本当に探している本に出会うためには

若：例えば本なんかで言うと書評ってあるじゃないですか。

大：はい、よく書いてらっしゃいますね。

若：うん、書評っていうのは、世の中のおおよそのルールですけどね、だいたい出てから3ヶ月くらいで書くんですよ。

大：本が出てから？

若：うん、3ヶ月以内くらいに書くのが普通だと言われてますね。ていうことは、古い本はあんまり書けないんですよ。

僕が1回新聞で書評を書かせて頂いている時に、古い古典が新訳で出たんですよ。書名までいっちゃうと、アウグスティヌスっていう人の『告白』っていう、新訳っていうか新しく文庫本になったんですよ。

大：中身は変わらず？

若：中身はね、山田晶さんて言う大変すぐれた学者が訳している、それはもともとハードカバーで出ていて、それが文庫本になって出たんですよ。で、僕は、今この本を読むのはとても大事だからこの今の時代において、これを書評で取り上げたいっていったら、いやそれはダメだって言われた。僕にとっては、文庫本になったから、やっぱりより広く読んで頂くといいじゃないですか。でもそういうことはやっぱりね、新聞という意味ではやりづらいということがありましたね。もっと今の本を紹介してほしいと。僕はその



新聞の役割っていうのもわかるんですけども、我々が会わなければならない本っていうのは、今出た本とは限らないですよ。

大：うん、そうですね。

若：読んでいない本は新刊なんだっていうのは、僕はいろんな所で言っているんですよ。

大：なるほど。その人にとってはね。

若：うん、そうなんです。だから、夏目漱石の『こころ』っていう本は、恐らく一番読まれた小説だと思いますけど、近代で。いろんな人に読まれた。ですけど、読んでいない人にとってはやっぱり新刊、新しい本なんだと思うんですよ。

けども、書評にばかり頼っていると、本当に時間的に新しく出た本だけを手にとっちゃうと思うんですよ。それはその人の理想の書物っていうものに出会っていきるとは限らない。大変時代的なものに左右されていますよね。

大：うん

若：そうじゃないところに立っていないと、本当に探している本には出会えないんじゃないかっていうのは、最近と言うか、ずっと考えていることなんです。

声で届ける「若松英輔の『言葉の贈り物』」好評配信中！

詳細・お申込みはこちらへ